

市民俳歌柳壇

特選

笑み湛えふた大谷おおや観音くわんおん初つば燕はつば

さつき3丁目 伊藤 純夫

●特選の選評 石の大谷に建つ磨崖まがひぶつ仏は、世界の平和を願って、岩盤から彫り込み創建された平和観音仏として宇都宮市のシンボルでもある。その慈悲深いご尊顔を仰ぎ、笑み湛ふと感じた作者。春の光を受けてほほ笑む観音様に今年もまた、燕が飛来した。この日を待っていた人たちの心を、「初燕」と結んで、共に心待ちにしていた作者の気持ちがよく伝わってくる秀句である。

俳句



加茂都紀女先生

入選

六地藏の辺り怪しき猫の恋

新里町乙 澤井 好明

せせらぎとひそひそ話猫柳

上田町 村上 恒子

草萌えや鋏くはの手入れのはじまりぬ

築瀬4丁目 升也 幸子

節分や記憶の父の大き声

平松本町 菊池 志津子

特選

ザラザラの顔の林檎は懐ふとこに
色鮮やかな蜜を抱きをり

下栗町 田中 洋子

●特選の選評 ザラザラした不恰好のリングを目前にした。「ザラザラ」の擬態語に、リングの表情と作者のいたいけな感眼が見える。しかし、「中味は、美しい色の甘い汁をたっぷりと大事に抱えております。」と透視ならずリングへの愛の実感と想う。リングのささやきも聞こえて来そう
な、ふと考えさせる一首である。

短歌



安野登美子先生

入選

母が折る鶴が天女に逢あひに行く
夢想の世界限りなく翔とぶ

弥生1丁目 大河原 信昭

何処どこからも正面となる花火には
残る煙が表裏を決める

野沢町 鈴木 孝男

マジックのように言の葉紡はぎだす
君はマジシャン「サラダ記念日」

大曾5丁目 岩淵 照美子

とりどりの手塩にかけし野菜たちに
似合ふ皿選り飾りし夕餉

下田原町 五十嵐 由美子

特選

笑つても泣いても顔はひとつだけ

氷室町 関 ふさ子

●特選の選評 コロナ禍のマスクで何を感じているのか読み取れず、自分自身も無表情になりがちであった。しかし、自分の顔は笑っても泣いても一つである。マスクを外したら人間らしく世間体を気にせず大いに笑い、大いに泣きたいものだ。

川柳



佐藤隆久先生

入選

雛ひなの日はお泊まり孫の布団干す

西川田本町 高松 幸子

ポチ散歩おめかしをして乳母車

東増田2丁目 渡辺 眞左

雑草の花に見とれた除草剤

鶴田町 鈴木 芙美子

はずせないマスクの理由は色々で

さつき3丁目 和田 悦子

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- ウェブによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

宇都宮市役所
広報広聴課
ふりがな
住所・氏名・壇名

裏

作品
作品への思い
作品への思い